



代表取締役社長の大久保聖志さん(写真上)、設備投資にも注力し印刷品質を追求(写真下)



環境保全へ仕組みの改革を

近年は脱プラスチックの動きが高まり、同社のみならず業界全体が環境に配慮したもののづくりを求められています。

「環境問題を解決するために重要な取り組みである3Rのうち、無駄なごみを減らす『リデュース』はレジ袋有料化などで一定の効果が見られ、もらった袋を何度も使う『リユース』はユーザーが主体となる取り組みです。私たち業界側の課題は『リサイクル』。それも、焼却熱を回収して利用するサーマルリサイクルではなく、物から物をつくるマテリアルリサイクルを目指したい」と、



資源循環とデザイン性 次代のポリ袋を追求

お店で買い物をした時、商品を入れてくれるポリエチレンの袋。いわゆるレジ袋とは違って広告としての役割も持ち、デザインや形状に店舗のこだわりを反映したものも少なくありません。

ポリエチレン袋メーカーである丸善工業の製品の9割は、こうした「キャリーバッグ」と呼ばれる店舗用の持ち帰り袋です。「日頃の買い物で、皆さんも一度は当社の製品を手にしたことがあると思いますよ」と代表取締役社長の大久保聖志さん。

海外製品も多数流通する中、素材の吟味から最終工程まで一貫体制を整え、多品種少量生産で毎月約千種・年間3億5万枚を出荷する国内トップクラスの製造力を誇ります。

同社は、包装資材の印刷からスタートしたこともあり、今も印刷の美しさと精度の高さに強みを発揮。微妙な色を調整する技術者の腕と、最大12色の印刷が可能な機械や高速製袋機をはじめとする業界屈指の製造ラインで、色も形もさまざまなオーダーメイドに対応します。

大久保さんは意気込みを語ります。

ペットボトルなど他分野では先行事例も増えていますが、現状、国内でマテリアルリサイクルされているポリエチレン袋は2割程度とのこと。大久保さんは環境負荷の少ない原料を使うものづくりを進める傍ら、ユーザーが使い終えた袋を回収し、それを原料として再び商品をつくる仕組みを確立しようと、共感してくれる企業との連携を深めています。「社会の価値観が変わりつつある中、みんなの意識を見直し、ものづくりと仕組みづくりを通じて環境という大きなテーマにきちんと向き合っていきたいですね」と展望を語りました。

問い合わせ先
（公財）かがわ産業支援財団 取引支援課
☎087(868)9904



植物由来原料を活用し「バイオマスマーク」認定を取得している製品(写真上)や、再生ペットボトルを原料の一部に使う製品(写真下)など、環境に配慮したものは顧客ニーズも高い

挑戦する かがわの ものづくり企業

高品質でお店の広告塔に

脱プラスチックが進む中でも、現代の消費社会には不可欠なポリエチレン袋。新しい発想でものづくりと環境配慮の両立を目指す、香川のものづくり企業を紹介します。

丸善工業株式会社

（住所）坂出市大屋富町1826番地8
（設立）1966年
☎087-876-1110
<https://www.p-maruzen.co.jp/>

INFO

新たな企業誘致助成制度をご紹介します

香川県企業誘致助成制度が、令和5年度からの支援策の新設や拡充により一層充実した内容となっています。

新設 工業団地などの整備に対する支援

対象分野	民間事業者による工業団地整備
要件	<ul style="list-style-type: none"> 一団の整備面積(分譲可能面積)が5畝以上であること 工場、試験研究施設、物流拠点施設、データセンターなどが立地するための用地であること 企業立地の見通しがあり事業の採算性がおおむね確保できること など
支援内容	<ul style="list-style-type: none"> 対象経費:分譲用地を除く公共施設(団地内の道路、公園・緑地、上水・工業用水道、下水道・排水施設、調整池など)の土地取得費および工事整備費 助成率など:対象経費の50%(上限5億円)

拡充 情報処理関連施設や地方拠点強化施設の立地への支援

- 事務所賃借料の50%助成を3年間から5年間に延長
 - 6人目以降の新規常用雇用者数×50万円助成を1年間から3年間(ただし2年目以降は純増分のみ)に延長(ソフトウェア業など)
 - 通信機器賃借料の50%助成(1年間)を地方拠点強化施設に追加
- ※施設や業務内容などにより異なります。詳細についてはお問い合わせください。



問い合わせ先

商工労働部 企業立地推進課
☎087-832-3354

